

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第7回総会議事次第

- 1 日時：令和6年5月27日（月）14時00分～15時00分
- 2 場所：東京海上日動火災保険株式会社（常盤橋タワー）10階会議室
&オンライン（Web会議システム Zoom）

3 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

- (1) コンソーシアムと筑波大学の交流企画について……………資料1
 - 第1回「キャリアマッチングデー」準備状況
 - 第2回の開催時期・内容（意見交換）
- (2) 令和6年度年間活動計画について……………資料2
 - シンポジウム企画（10月18日（金）午後、東京都内）
 - 第17回運営委員会&参画機関見学会（11月）
- (3) その他

【報告事項】

- (1) 巨大災害研究会・R2EC合同シンポジウム開催報告について……………資料3
- (2) 第26回幹事会（R6.3.6）について……………資料4
- (3) 第27回幹事会（R6.4.22）について……………資料5
- (4) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

- (1) その他

【報告事項】

- (1) 「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告 Vol.2」刊行について……………資料6
- (2) 令和5年度修了者の進路報告について……………資料7
- (3) 令和5年度コンソーシアム参画機関の修了者数について……………資料8
- (4) 令和6年度コンソーシアム参画機関の学生数について……………資料9
- (5) 令和6年度協働大学院教員の指導する学生数について……………資料10
- (6) 参画機関向け学位プログラムリーフレット（令和6年度版）の活用について……………資料11
- (7) その他

総会終了後、東京海上日動火災保険（株）の事業紹介（総会と同一のURLでオンライン配信あり）

（配付資料）

出席者名簿……………	p.3
資料1 コンソーシアムと筑波大学の交流企画について（概要）（案）……………	p.5
資料2 令和6年度年間活動計画……………	p.7
資料3 巨大災害研究会・R2EC合同シンポジウム開催記録……………	p.8

資料 4	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 26 回幹事会議事要旨	p.11
資料 5	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 27 回幹事会議事要旨	p.14
資料 6	「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告 Vol2」刊行について.....	p.16
資料 7	令和 5 年度修了者 進路報告	p.18
資料 8	コンソーシアム参画機関 年度別修了者数一覧	p.19
資料 9	コンソーシアム参画機関 年度別在籍学生数一覧.....	p.20
資料 10	協働大学院教員 年度別指導学生数一覧	p.21
資料 11	参画機関向けリスク・レジリエンス工学学位プログラムリーフレット（R6 年度版）	p.22

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第7回総会 出席者名簿

(敬称略)

機関	委員	出欠	委員代理	出欠	陪席者	出欠
セコム	IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー 甘利 康文	出席			IS研究所 研究企画推進部 主務 小松原 康弘	出席
日本電気	セキュアシステムプラットフォーム 研究所 主任研究員 柳生 智彦	欠席				
東急プロパティマネジメント	BC推進センター センター長 狩矢 淳雅	欠席	BC推進センター 次長 松本 幸一	出席 (Zoom)		
NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画部 部長 秋山 一也	出席 (Zoom)			レジリエント環境適応研究プロジェクト 主任研究員 小山 晃	出席 (Zoom)
東京海上日動火災保険	アドバイザー 林 春男	出席			dX推進部 BD室 柴崎 紘基	出席
東急総合研究所	研究部 主任研究員 真城 源学	出席			主任研究員 市村 健一	出席
DRIジャパン	理事長 長瀬 貫隆	出席 (Zoom)				
電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英	欠席	企画グループ 主任 舟橋 卓	出席 (Zoom)		
日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員 安部 原也	出席 (Zoom)				
電子航法研究所	特別研究主幹 福島 幸子	出席				
産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 領域長補佐 兼務 エネルギー・環境領域連携推進室 室長 玄地 裕	出席 (Zoom)			エネルギー・環境領域研究企画室 企画主幹 頭士 泰之	出席 (Zoom)
防災科学技術研究所	理事長 實 馨	出席			企画部 部長 松室 寛治	出席
					企画部 次長 松本 拓巳	出席 (Zoom)
					企画部研究推進課 課長 倉谷 定秋	出席 (Zoom)
					企画部研究推進課 係長 田代 麻耶	出席 (Zoom)
労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長代理 山際 謙太	欠席	機械システム安全研究グループ 上席研究員 岡部 康平	出席 (Zoom)		
國家災害防救科技中心 (NCDR) (台湾)	Secretary General Wei-Sen Li	出席 (Zoom)				
筑波大学	システム情報系 教授 理工情報生命学術院システム情報工学研究群長 遠藤 靖典	出席			システム情報エリア支援室 主幹 増田 正裕	出席
	システム情報系 教授 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー 岡島 敬一	出席			システム情報エリア支援室 大学院教務 係長 栗原 宏太	出席
					システム情報エリア支援室 大学院教務 係員 酒井 美和	出席
	システム情報エリア支援室 専門員 (コーディネーター) レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局長 石濱 悟	欠席	システム情報エリア支援室 室長 大貫 康司	出席	システム情報エリア支援室UEA 根本 美南	出席

コンソーシアムと筑波大学の交流企画について（概要）（案）

令和5年度より、コンソーシアム運営委員会・幹事会において、コンソーシアム参画機関と筑波大学の優秀な学生の交流（就職や共同研究）を意図した取組みの実施を継続検討してきた。第16回運営委員会（R6.3.6開催）において各参画機関にいただいた意見をふまえ、令和6年度は以下の取組みを実施することを提案する。

- ・第1回：令和6年7月8日（月）に「A」を実施（別添ポスター案参照）
 - ・第2回：令和6年9～12月に「A～D」のいずれかを実施
- 但し、第2回目については、第7回総会（R6.5.27）において方向性を確認のうえ、決定したい

A. キャリア関連イベント「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー」

◆ 趣旨：参画機関から筑波大生にインターンシップや就職情報を提供することで、優秀な学生の就職を促進することを目的とする。

◆ 参加者：

【参画機関側】

- ・各参画機関の人事担当者、コンソーシアム委員等

【筑波大学側】

- ・大学院生：システム情報工学研究群の学生（リスク・レジリエンス工学、社会工学、サービス工学、情報理工、知能機能システム、構造エネルギー工学、エンパワーメント情報学）
- ・学部生：システム情報工学研究群関連学類の学生（社会工学、工学システム、情報科学等）

B. 研究交流イベント「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 研究マッチングデー」

◆ 趣旨：参画機関の研究者と筑波大生（大学院生）が互いに研究シーズを紹介し、共同研究や研究を活かした就職の可能性を探る。

◆ 参加者：

【参画機関側】

- ・各参画機関の研究従事者（協働大学院教員を含む）、コンソーシアム委員等

【筑波大学側】

- ・大学院生：システム情報工学研究群の学生（リスク・レジリエンス工学、社会工学、サービス工学、情報理工、知能機能システム、構造エネルギー工学、エンパワーメント情報学）

※聴講者として学部生の参加も歓迎

C. キャリア・研究交流イベント

「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリア・研究マッチングデー」

- ・AとBを組み合わせて開催する。

D. 参画機関と学位プログラムとの意見交換会「R2ECカフェ」

◆ 趣旨：カリキュラムをはじめとした協働大学院方式の活性化について、参画機関と学位プログラムで忌憚のない意見交換をする。

◆ 参加者：

【参画機関側】

- ・各参画機関の委員、協働大学院教員等

【筑波大学側】

- ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム専任教員

ポスター (案)

筑波大学
University of Tsukubaレジリエンス研究教育推進コンソーシアム
Resilience Research and Education Promotion Consortium

キャリアマッチングデー

CAREER
MATCHING
DAY筑波大生
限定

令和6年7月8日

13:30-15:00 全体セッション
15:00-16:00 個別相談カフェ会場 筑波大学第3エリア
3B棟2階プレゼンルーム(3B213)各業界をリードする企業・研究機関の採用担当者、実務担当者、
研究者から話を聞き、交流できるチャンスです。
この貴重な機会をぜひご活用ください!

チャンス!!

こんな大学院生・学類生の皆さんの参加をお待ちしています。

これから参加できる
インターンシップ
情報を探したい就職やキャリアに
関する情報を得たい企業や研究機関の方と
話して見識を広げたい

参加機関

■ 企業

セコム(株)

■ 研究機関

(国研)海上・港湾・航空技術研究所、電子航法研究所

(国研)産業技術総合研究所

(国研)防災科学技術研究所

(一財)日本自動車研究所

参加対象

- システム情報工学研究群に所属する大学院生
- 理工学群に所属する学群生
- その他、本イベントに関心のある筑波大生

申込方法

事前登録制

右記QRコードより
登録してください

QR

登録メ切: 7月8日(月)正午

問合せ先

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局(筑波大学システム情報エリア支援室)
r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp

軽装でお越しください

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 令和6年度年間活動計画

	コンソーシアム関連				学位プログラム関連	
	総会・運営委員会	幹事会	シンポジウム	その他	入試	その他
令和6年4月		第27回幹事会 4月22日(月) 13:30-14:30 オンライン			募集要項公表(Web) (4月下旬)	オープンキャンパス 4月21日(日)
5月	第7回総会 &参画機関見学会 5月27日(月) 14:00-17:00 東京海上日動(千代田区 大手町)					
6月						
7月		第28回幹事会 7月24日(水) 13:30-14:30 オンライン		筑波大生との交流企画 第1回「筑波大×R2ECマッ チングデー」 7月8日(月) 13:00-16:00 筑波大学	7月実施 前期課程入試(推薦) 7月実施 後期課程入試(一般・社会人) ※R6年10月入学	
8月					8月実施 前期課程入試(一般・社会人) 8月実施 後期課程入試(一般・社会人)	
9月						
10月		第29回幹事会 シンポジウムと同日に 開催予定	単独開催シンポジウム 10月18日(金) 13:00-17:00 東京地区(場所未定)			
11月	第17回運営委員会 &参画機関見学会 (日時・場所未定)					
12月						
令和7年1月					1-2月実施 前期課程入試(一般・社会人) 1-2月実施 後期課程入試(一般・社会人)	
2月		第30回幹事会 2月10日(月) 13:30-14:30 オンライン	合同開催シンポジウム (日時・場所未定)			
3月	第18回運営委員会 &参画機関見学会 (日時・場所未定)					

※総会・運営委員会未開催機関(R6.3.6現在): 日本電気株式会社、東急プロパティマネジメント、東急総合研究所、DRIジャパン、電力中央研究所、電子航法研究所、労働安全衛生総合研究所

巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 合同シンポジウム 「レジリエントな DX 社会をつくるー災害・防災の最前線ー」 開催記録

1. 日時 2024 年 3 月 4 日（月）14:00-17:00

2. 場所

- ① 東京会場 : 筑波大学東京キャンパス文京校舎 120 講義室
- ② 大阪会場 : TKP 新大阪ビジネスセンター ホール 3A
- ③ オンライン: Zoom ウェビナー

3. 参加者数 ※括弧内は事前登録者数

- ① 東京会場 : 39 名 (41 名)
 - ② 大阪会場 : 12 名 (13 名)
 - ③ オンライン: 152 名 (219 名)
- 合計: 203 名 (273 名)

4. 開催記録



◆オープニング

木村 玲欧 氏【大阪会場】
(巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 環境人間
学部・大学院環境人間学研究科 教授)



◆開会挨拶

遠藤 靖典 氏【東京会場】
(巨大災害研究会 副会長／レジリエンス研究
教育推進コンソーシアム 副会長／筑波大学
システム情報系 教授)

◆講演 1「防災・減災総合ソリューション事業の実現に向けて」



川谷 篤史 氏【東京会場】
(東京海上日動火災保険株式会社 dX 推進部
BD (ビジネスデザイン) 室 マネージャー)

講演概要

- ・ 民間企業目線による防災 DX 事業の事例
- ・ 防災減災領域における研究機関・大学との共同研究・共同事業
- ・ 今後の展望: 防災減災領域に特化した新会社
「東京海上レジリエンス」の事業展開

◆講演2『「応急対応 DX」からガバナンスにアプローチする』



永松 伸吾 氏【大阪会場】

(関西大学 社会安全学部 教授／防災科学技術研究所
災害過程研究部門 招へい研究員 (部門長))



折橋 祐希 氏【東京会場】

(防災科学技術研究所 災害過程研究部門
特別研究員)

講演概要

- ・防災科学技術研究所 災害過程研究部門が取り組む「応急対応 DX プロジェクト」の概略 (永松氏)
- ・令和6年能登半島地震における活動の概略 (永松氏)、石川県輪島市での事例と見えてきた課題 (折橋氏)
- ・デジタイゼーションとデジタライゼーション (折橋氏)
- ・今後の展望 (折橋氏)

◆パネルディスカッション「レジリエントなDX社会をつくる」

パネリスト：

川谷 篤史 氏 (講演1)、永松 伸吾 氏 (講演2)、折橋 祐希 氏 (講演2)

内山 庄一郎 氏 (防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門 主任専門研究員)

酒井 慎一 氏 (巨大災害研究会 副会長／東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授)

井ノ口 宗成 氏 (巨大災害研究会 事務局長／富山大学 都市デザイン学部 准教授／
防災科学技術研究所 災害過程研究部門 主幹研究員)

モデレーター：遠藤 靖典 氏、木村 玲欧 氏

ディスカッション概要：

主に以下について討論があった。

- ・災害発生時の対応の標準化
- ・災害発生時における現地の指揮命令系統と支援者の連携方法
- ・防災減災事業のマネタイズ
- ・ドローン・ロボット・AI等のテクノロジーを活用する際の社会受容性向上や人々のマインドセットの変革の必要性



内山 庄一郎 氏
【東京会場】

(防災科学技術研究所
マルチハザードリスク
評価研究部門 主任専
門研究員)



酒井 慎一 氏
【東京会場】

(巨大災害研究会 副
会長／東京大学 大学
院情報学環・学際情報
学府 教授)



井ノ口 宗成 氏【オンライン】

(巨大災害研究会 事務局長／富山大学 都市デザイン学部 准教授／
防災科学技術研究所 災害過程研究部門 主幹研究員)



東京会場の様子

(写真左から) 遠藤氏、川谷氏、
折橋氏、内山氏、酒井氏



大阪会場の様子

(写真左から) 木村氏、永松氏



◆閉会挨拶

寶 馨 氏【東京会場】

(レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長
／防災科学技術研究所 理事長)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第26回幹事会議事要旨

- 1 日 時 令和6年3月4日(月) 12時30分～13時30分
- 2 場 所 筑波大学東京キャンパス文京校舎 118講義室
- 3 出席者 寶(会長)、甘利(副会長)、遠藤(副会長)、岡島、石濱
 オブザーバー 東京海上日動 林
 陪席者 防災科学技術研究所 松室、松本
 セコム 小松原
 東京海上日動 川谷、柴崎、山田
 筑波大学 大貫、栗原、酒井、根本

4 議 事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) 令和6年度年間活動計画(案)について

遠藤副会長から、資料1に基づき次年度の活動計画について説明があり、第7回総会&参画機関見学会の開催地については、東京海上日動で開催することとなった。

【決定済み】

- ・第27回幹事会 令和6年4月22日(月) 13:30-14:30 オンライン
- ・第7回総会&参画機関見学会 令和6年5月27日(月) 14:00-17:00 東京海上日動(千代田区大手町)
- ・第28回幹事会 令和6年7月24日(水) 13:30-14:30 オンライン
- ・単独開催シンポジウム 令和6年10月18日(金) 13:00-17:00 東京地区(場所未定)
- ・第29回幹事会 令和6年10月18日(金) 時間未定 ※シンポジウムと同日開催
- ・第30回幹事会 令和7年2月10日(月) 13:30-14:30 オンライン

【未定】

- ・第17回運営委員会&参画機関見学会 令和6年11月 日時・場所未定(参画機関と個別相談)
- ・合同開催シンポジウム 令和7年2月 日時・場所未定
- ・第18回運営委員会&参画機関見学会 令和7年3月 日時・場所未定(参画機関と個別相談)

関連して、寶会長から次の説明があった。

- ・4月20日(土) 防災科学技術研究所の一般公開実施
 防災関係に関心のある学生等に周知いただきたい

(2) コンソーシアムと筑波大生の交流企画について

遠藤副会長から、資料2に基づき交流企画の趣旨説明があり、企画内容・実施時期について意見交換が行われ、次のとおり合意された。

- ・3月6日(水)の運営委員会において各参画機関に意見照会
- ・幹事会としては「コンソーシアム参画機関によるインターンシップ説明会(6～7月開催)」を提案

(主な意見)

- ・岡島委員：就活時期が早まっており、多くの学生がM1の3月頃までに内定を得る。M1対象なら秋の開催は遅いため6～7月。学部生にも拡大するなら10～12月も考えられる。

- ・寶会長 : 6~7月はM1の学生にとって研究が始まって間もない時期であるため、学生の研究発表は難しいのではないかと。
- ・川谷氏 : 開催目的によって、適切な実施時期は異なると思われる。当社としては、最初の関係づくりであれば早い方がよく、本格的なマッチングなら3月頃。
- ・林氏 : 参画機関から学生にPRする場とするのが良さそうと思われる。6~7月に各機関のインターンシップを紹介してもらうのはどうか。
- ・石濱委員: 出来れば各機関既定のインターンシップではなく、本学学生向けに独自のインターンシップを紹介・実施していただければありがたい。
- ・寶会長 : 次回の運営委員会で他の機関にも意見を聞くこととして、幹事会としては「参画機関によるインターンシップ説明会の開催(6~7月)」を提案したいと思う。
- ・林氏 : シンポジウムを交流の場として活用するのも良い。会場で参画機関の若手社員が社名入りのネームタグを掲げ、学生が声を掛けやすくする等の工夫をしてみてもいい。

(3) 巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム開催について

遠藤副会長から、資料3-1~2に基づき次の説明があった。

- ・東京・大阪・オンラインの3会場開催
- ・事前申込者数: 280名(東京43名、大阪13名、オンライン224名)

(4) JST 共創の場形成支援プログラム本格型昇格審査結果について

遠藤副会長から、次の報告があった。

- ・コンソーシアムが協力機関として関与していた「共創の場形成支援プログラム(共創分野・育成型)」の本格型への昇格審査が行われ、結果、不採択となった
- ・主な不採択理由: ビジネスモデルが明確ではなかった
- ・共創分野・育成型4事業のうち本格型昇格は1件(東北大学)
- ・育成型期間で培った事業構想と産学官連携を活かし、今後新たな公募型事業等に応募予定

(5) その他

特になし

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和6年度協働大学院教員及び非常勤講師について

岡島委員から、資料6-1~2に基づき次の報告があった。

- ・協働大学院教員: 12名全員継続予定
- ・非常勤講師 : 科目名変更あり(「セキュリティ論考特論」→「リスクと安心の科学哲学特論」)
 ※変更理由: 受講生から、情報セキュリティ分野に留まらない幅広い講義であることから、科目名を変更した方がより多くの学生の受講が見込まれるとの声があったため

(2) その他

- ・学位プログラムオープンキャンパスの開催について(4月21日)
 岡島委員から、開催日等の説明があった。

・令和 5 年度 前後期課程入試・修了者報告（参画機関関係）

岡島委員から、次の報告があった。

✧ 入試報告 ：後期課程 4 月入学予定者 14 名のうち、5 名が協働大学院教員を主指導教員に希望

✧ 修了者報告：後期課程 11 名修了予定

うち 1 名が参画機関所属者であり、1 年間の早期修了プログラムを修了

・その他

遠藤副会長から、次年度以降の筑波大学の体制が次のとおり内定した旨の報告があった。

✧ システム情報工学研究群長：遠藤 靖典（再任）

✧ 同研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー：岡島 敬一（再任）

以上

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第27回幹事会議事要旨

- 1 日時： 令和6年4月22日（月）13時30分～14時20分
- 2 場所： オンライン（Zoom）
- 3 出席者： 寶（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
オブザーバー： 林（東京海上日動）
陪席者： 松室（防災科学技術研究所）、松本（〃）、小松原（セコム）、
大貫（筑波大学）、増田（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) コンソーシアムと筑波大生の交流企画について

遠藤副会長から、資料1に基づき説明があり、意見交換の結果、次のとおり企画することとなった。

- ・令和6年度は2回実施
- ・第1回は次のとおり実施

イベント名称：筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー

開催日時：7月8日（金）13:00-16:00

開催場所：筑波大学（つくばキャンパス）

参加機関募集：幹事会終了後、参加依頼送付（締め切り：5月17日（金））

- ・第2回の企画内容は第7回総会（5月27日）に諮る

(2) 令和6年度コンソーシアムの行事について

遠藤副会長から、資料2に基づき次の2点について意見交換依頼があり、結果、次の方向で検討を進めることとなった。

- ・シンポジウムのテーマ：

✓ JST 共創の場形成支援プログラム「フェーズフリーな超しなやか社会を実現する 5D-MaaS 共創拠点（2022-2023年度）」のフォローアップ企画とする

✓ 少子高齢化、労働力不足等の社会的課題を絡める

- ・第17回運営委員会&参画機関見学会の開催地：

東急プロパティマネジメント（株）を第1候補として依頼を進める

(3) 巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム開催報告

遠藤副会長から、資料3に基づき開催報告があった。

(4) その他

特になし。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 令和5年度修了者の進路報告について

岡島委員から、資料4に基づき次の報告があった。

- ・ 博士前期課程：1 名が参画機関に就職
 - ・ 博士後期課程：2 名は参画機関の現職者
- (2) 令和 5 年度コンソーシアム参画機関の修了者数について
岡島委員から、資料 5 に基づき次の報告があった。
- ・ 博士後期課程：2 名（うち 2 名早期修了者）
- (3) 令和 6 年度コンソーシアム参画機関の学生数について
岡島委員から、資料 6 に基づき次の報告があった。
- ・ 博士前期課程・後期課程ともに今年度入学者は 0 名
新規入学者を得るための告知を強化していきたい
- (4) 令和 6 年度協働大学院教員の指導する学生数について
岡島委員から、資料 7 に基づき次の報告があった。
- ・ 主指導として博士後期課程 10 名を指導
 - ・ 副指導は現在調整中だが、昨年度と同程度の指導学生数となる見込み
- (5) 参画機関向け学位プログラムリーフレットの更新について
岡島委員から、資料 8 に基づき次の報告があった。
- ・ リーフレットを更新したため各機関内で展開願いたい
 - ・ 「修了者の声」に昨年度早期修了した真城源学氏（東急総合研究所）のコメントを掲載
- 関連して、真城氏の学位表記を次のとおり訂正し、改めて参画機関に展開することとなった。
- ・ 博士（工学）取得 → 令和 6 年 3 月 博士（工学）取得
- (6) その他
特になし。

以上

**「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告 Vol.2」
刊行について**

筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム
広報委員会（紀要担当）

2022年度の学位プログラム広報委員会の議論とコンソーシアム運営委員会の検討により、「リスク・レジリエンス工学研究」として発行していた紀要は、2023年度から「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告」として刊行されることになった。

今後のスケジュール

- ・ 5月の学位プログラム教育会議にて目次案（別添）検討・決定
- ・ 目次決定後、順次執筆を正式依頼
- ・ 6月中旬：原稿締め切り
- ・ 6月：校正作業
- ・ 7月：発刊

以上

【目次案】

No	記事種別	分類	テーマ・内容(案)	執筆者(敬称略)	ページ数	
1	巻頭言			甘利副会長(セコム)	1	2
2	コンソ活動報告		5D-MaaSによる空から創る未来のまち in 広島	根本(筑波大学)	1	2
3	コンソ活動報告		巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 合同シンポジウム	根本(筑波大学)	1	2
4	コンソ座談会		会長・前会長・副会長による座談会		2	6
5	R2学位P活動報告	研究	2023リスク工学研究会報告	高安(筑波大学)	1	2
6	R2学位P活動報告	教育	リカレント学際教育プログラム(リスク×ライフ)	岡島(筑波大学)	1	2
7	R2学位P活動報告	教育	2023R2工学PBL演習総括	木下(筑波大学)	1	2
8	R2学位P活動報告	教育	2023オープンキャンパス	鈴木研悟・羽田野(筑波大学)	1	2
9	R2学位P活動報告	教育	2023インターンシップ・就職支援企画	三崎(筑波大学)	1	2
10	R2学位P表彰者寄稿	研究群長表彰	2023年度受賞者		1	2
11	R2学位P表彰者寄稿	つくばスカラシップ賞	2023年度受賞者		1	2
12	R2学位P表彰者寄稿	プログラムリーダー賞(研究部門)	2023年度受賞者		1	2
13	R2学位P表彰者寄稿	プログラムリーダー賞(研究部門)・校友会江崎賞	2023年度受賞者		1	2
14	R2学位P表彰者寄稿	プログラムリーダー賞(教育部門・社会貢献部門)・茗溪会賞	2023年度受賞者		1	2
15	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
16	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
17	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
18	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
19	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
20	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
21	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
22	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
23	R2学位P表彰者寄稿	優秀賞	2023年度受賞者		1	1
24	新任挨拶		着任のご挨拶	干川(筑波大学)	1	1
25	新任挨拶		着任のご挨拶	高橋(筑波大学)	1	1
26	新任挨拶		着任のご挨拶	Joubi(筑波大学)	1	1
27	退任挨拶		退任のご挨拶	倉橋(筑波大学)	1	2
28	参画機関一覧		コンソ参画機関の一覧		1	2
	ページ数計		※ページ数増の可能性あり		29	48

最小 最大

【今後の流れ】

- 1 原稿締切: 令和6年6月初旬
- 2 校正: 2回
- 3 発刊: 令和6年7月

【構成・PDF作成】

- ・依頼先未定
- ・CDにて納品

リスク・レジリエンス工学学位プログラム

令和5年度修了者 進路報告

(単位：人数)

	博士前期 (32名)	博士後期 (10名)
進学 (博士後期)	4	
就職 (参画機関)	27 (1)	2 (0)
職場復帰 (参画機関)	1 (0)	6 (2)
就職活動中	0	1
進学準備中	0	1
未回答	0	0
合計	32	10

リスク・レジリエンス工学学位プログラム
コンソーシアム参画機関 年度別修了者数一覧

(単位：人数)

参画機関 (学生所属先) ※	課程	修了年度			備考
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
セコム株式会社	M				
	D				
日本電気株式会社	M				
	D		1		
東急プロパティマネジメント株式会社	M				
	D				
NTT宇宙環境エネルギー研究所	M				
	D				
東京海上日動火災保険株式会社	M				
	D				
株式会社東急総合研究所	M				
	D			1*	*早期修了
一般財団法人 DRIジャパン	M				
	D				
一般財団法人 電力中央研究所	M				
	D				
一般財団法人 日本自動車研究所	M				
	D			1*	*早期修了
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術 研究所 電子航法研究所	M				
	D				
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	M				
	D				
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	M				
	D		1		
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	M				
	D				
國家災害防救科技中心（台湾）	M				
	D				
小計	M	0	0	0	
	D	0	2	2	
合計		0	2	2	

M…博士前期課程、D…博士後期課程

※ 参画機関（学生所属先）は入試出願時データより現職にてカウント。また、参画機関から筑波大学を除く。

リスク・レジリエンス工学学位プログラム
コンソーシアム参画機関 年度別在籍学生数一覧

(単位：人数)

参画機関 (学生所属先) ※	課程	在籍年度					備考
		令和2年度(入学者数)	令和3年度(入学者数)	令和4年度(入学者数)	令和5年度(入学者数)	令和6年度(入学者数)	
セコム株式会社	M						
	D						
日本電気株式会社	M						
	D	1(1)	1(0)	1(0)			R5.3.24修了：1名
東急プロパティマネジメント株式会社	M						
	D						
NTT宇宙環境エネルギー研究所	M						
	D						
東京海上日動火災保険株式会社	M						
	D						
株式会社東急総合研究所	M						
	D				1(1)		R6.3.25修了（早期）：1名
一般財団法人 DRIジャパン	M						
	D						
一般財団法人 電力中央研究所	M						
	D						
一般財団法人 日本自動車研究所	M						R2.8.31退学：1名
	D	1(1)			1(1)		R6.3.25修了（早期）：1名
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	M						
	D						
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	M						
	D						
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	M						R5.3.24修了：1名
	D	2(2)	3(1)	3(0)	1(0)	1(0)	R5.3.31退学：1名
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	M						
	D						
國家災害防救科技中心（台湾）	M						
	D						
小計	M	0	0	0	0	0	
	D	4(4)	4(1)	4(0)	3(2)	1(0)	
合計		4(4)	4(1)	4(0)	3(2)	1(0)	

※ 参画機関（学生所属先）は入試出願時データより現職にてカウント。また、参画機関から筑波大学を除く。

リスク・レジリエンス工学学位プログラム/リスク工学専攻

協働大学院教員 年度別指導学生数一覧

(単位：人数)

協働大学院教員 所属機関	教員数 (R6.4.1 現在)	課程	令和 2 年度		令和 3 年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
			主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数
セコム株式会社	1	M		1		1		8		9		3
		D		3		3		6		8		5
一般財団法人電力中央研究所	1	M		1		4		3		3		2
		D		2		1		1				
一般財団法人日本自動車研究所	2	M		4		3		2		2		3
		D		4		5		6		9		7
国立研究開発法人産業技術総合研究所	4	M		3		5		7		11		11
		D		6		5		5	1	5	1	3
国立研究開発法人防災科学技術研究所	3	M		3	2	8	3	7	1	2		3
		D	2 (2)		3 (3)		4 (3)		3 (1)	4	9 (1)	12
独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	1	M		2		2		2		2		3
		D		2		2		4		4		5
小計	12	M	0	14	2	23	3	30	1	29	0	25
		D	2 (2)	20	3 (3)	16	4 (3)	22	4 (1)	30	10 (1)	32
合計			2 (2)	34	5 (3)	39	7 (3)	52	5 (1)	59	10 (1)	57

M…博士前期課程、D…博士後期課程

※ 学生数は累計で示す。

※ ()内は、協働大学院教員の所属機関から受け入れた学生数を内数で示す。

あなたの**知**を 博士(工学)に変えます。
キャリアアップに繋がります。

リスク・レジリエンス工学学位プログラムは
社会人を積極的に受け入れます。

リスク・レジリエンス工学学位プログラムでは、
リスクを工学的方法により分析し、レジリエンス社会の
実現のために活用できる人材を養成します。

- 自立した研究者としての研究能力を養成
- 高度専門職業人としての研究能力と豊かな学識を養成
- 博士後期課程（標準3年間）〈学位：博士（工学）〉
- 修了後には大学の客員教員や非常勤講師として人材育成に携わる道も

レジリエンスで、 未来を見る。

世の中を、
リスクで
診る。

学位プログラム：達成すべき能力が明示され、それを修得できるように体系的に設計された新しい教育プログラム

本学の専任教員に加え、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（下記）に
参画する14の企業・研究機関の専門家があなたの知を涵養します。

詳しくは <https://r2ec.jp>  レジリエンス研究教育推進コンソーシアム協働大学院方式  レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

今後は、博士として、その高いプレゼンスを発揮し、自身の研究能力に磨きをかけ、レジリエントな社会の実現に貢献したいと思っています。



リスク・レジリエンス基盤分野

協働大学院教員

日本自動車研究所

教授 安部原也 ドライバ行動, 自動車安全性, 自動運転
准教授 北島創 自動運転, 認知科学, ヒューマンエラー分析

労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

准教授 岡部康平 労働災害, 安全設計, 協働ロボット, 介護機器

産業技術総合研究所

准教授 佐藤稔久 運転行動の計測・モデル化, 運転の楽しさ

専任教員

教授 伊藤誠 安全性, 信頼性, ヒューマンファクター
教授 イリチュ(佐藤)美佳 統計科学, ソフトコンピューティング
教授 遠藤靖典 クラスタリング, 機械学習, データ解析
准教授 木野泰伸* プロジェクトマネジメント, システム開発
准教授 高安亮紀 数値解析, 精度保証付き数値計算, 無限次元力学系
准教授 古川宏 認知インタフェース, モバイル, 教育・知識
助教 齊藤裕一 人間機械系, システム安全制御
助教 三崎広海 計量経済学, ファイナンス, ビッグデータ

情報システム・セキュリティ分野

協働大学院教員

セコム株式会社

准教授 島岡政基 認証基盤, トラスト, セキュリティ研究倫理

専任教員

教授 面和成 ネットワークセキュリティ, 暗号技術の応用
教授 津田和彦* 自然言語処理, 情報検索, ソフトウェア工学
准教授 西出隆志 公開鍵暗号とその理論, 暗号プロトコル設計
准教授 干川尚人 ネットワークシステム, DX, 安否確認
准教授 吉田光男* 計算社会科学, ウェブ情報学, 自然言語処理
助教 高橋大成 ブロックチェーン, 暗号プロトコル

都市防災・社会レジリエンス分野

協働大学院教員

防災科学技術研究所

教授 白田裕一郎 防災情報, 災害動態解析, 意思決定支援
教授 酒井直樹 災害リスク, IoT/AI, リモートセンシング
教授 藤原広行 地震・津波に対するハザード・リスク評価

専任教員

教授 鈴木勉 都市解析, 空間情報科学
教授 谷口綾子 都市交通計画, リスク・コミュニケーション
准教授 梅本通孝 人的被害軽減のための都市・地域ソフト防災
助教 木下陽平 衛星測地技術の気象利用, SAR, MaaS 利用

環境・エネルギーシステム分野

協働大学院教員

産業技術総合研究所

教授 加藤和彦 太陽光発電システム, 火災・感電リスク
教授 田原聖隆 ライフサイクル評価, インベントリデータベース
准教授 頭士泰之 化学物質リスク, ケモインフォマティクス

電力中央研究所

教授 山本博巳 エネルギーシステム分析, 低炭素エネルギー

専任教員

教授 岡島敬一 新エネルギー技術・システム評価
教授 庄司学 構造信頼性, 地震・津波災害, ライフライン
教授 羽田野祐子 環境動態, 放射性核種, 福島事故, エアロゾル
助教 秋元祐太郎 燃料電池, 非破壊診断, 再エネ・EV の融合
助教 鈴木研悟 エネルギーシステム, 機械学習, ゲーミング
助教 Abdulrahman Joubi 太陽エネルギー, 水素製造, 技術経済の評価

*印は東京キャンパス常駐教員です。

本プログラムの社会人を応援するコンテンツ

社会人のための入学試験

- これまでの研究業績や経験を活かせる**社会人特別選抜**を実施します。
- 従来の**4月入学**に加え、**10月入学**が新設されました。
(※受験する入試の種類によります。詳しくはお問い合わせください)
- 試験会場は**つくば**と**東京**から選べます。
- 修士の学位を有していない方も、事前の出願資格審査を経て、出願が可能となります。

柔軟で多様な学修・研究環境

- 希望する指導教員が所属する機関で、研究指導が受けられます。
- 東京キャンパス常駐教員を指導教員に指名することにより、夜間や土曜日に東京で研究指導を受けられます。また、東京キャンパスで開講している授業も受けられます。
- 研究指導は、**複数指導体制**(3名)により、大学の専任教員と協働大学院教員の両方から指導を受けることもできます。

長期・短期の学修計画

- **長期履修制度**を利用すれば、トータルの学費負担は変わらず学修期間を最大5年間に延長できます。
- **早期修了プログラム**により最短1年間で博士号を取得することも可能です。(履修審査あり)

達成度評価によるきめ細かな学修サポート

- 学生ポートフォリオ等の作成を通じて、自らの達成度を確認しつつ学修を進められます。さらに、年2回の個別面談により3名以上の教員から**学修達成度評価**を受け、その結果を学修の改善に役立ててすることができます。
- 必要に応じて、ご自身の専門に関わる科目のほか、大学院共通科目や他研究群の科目などを受講することもできます。

■ 就学に必要な経費 検定料: 30,000円 入学料: 282,000円 授業料: 535,800円 (年額)

奨学金制度、研究支援制度、入学料・授業料免除制度等が利用できる場合があります。
また、ご自身の機関にも支援制度がある場合があります。 ※勤務先就業規程もご確認ください。

博士前期(修士)課程もあります。詳しくはプログラムサ²³をご覧ください。 <https://www.risk.tsukuba.ac.jp/>

